

【賛成多数で可決された議案】

議案番号	議案名	概要	賛成しなかった議員
議案第70号	津市水道事業給水条例の一部の改正について	水道管の老朽化対策や施設耐震化等の事業に必要な費用を賄うことなど将来に向けて安全な水道水の供給を安定的に行うため、令和4年4月1日から水道料金の基本料金および従量料金を改定するための所要の改正	滝勝弘、竹下幸智子 藤本ともこ、長谷川幸子
	《反対討論 日本共産党津市議団 滝勝弘議員》コロナ禍で仕事がない、収入が減った、働く人の実質賃金は下がり、年金も減り続け、また、医療や介護の負担は増えている。このように家計が大変な市民にさらに重い負担を押しつける料金値上げは行うべきではないことから反対する。		
議案第73号	令和3年度津市一般会計補正予算（第7号）	青山高原保健休養地内崩落法面安全対策事業等の増による12億5,439万3,000円の増額補正等	岡村武（拒否）
認定第1号	令和2年度津市一般会計歳入歳出決算		滝勝弘、竹下幸智子 藤本ともこ、長谷川幸子
	《反対討論 日本共産党津市議団 長谷川幸子議員》保育士の確保とあわせ処遇改善を図り必要な人員は正規職員とすべきこと。次に、マイナンバーカードの推進は、あらゆる個人情報の国による一元管理を可能とする制度であること。次に、当事者の気持ちを無視した不公平な同和対策事業、同和教育はやめるべきと考えることから反対する。		
認定第2号	令和2年度津市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算		滝勝弘、竹下幸智子 藤本ともこ、長谷川幸子
	《反対討論 日本共産党津市議団 長谷川幸子議員》保険料が高くなる要因としての「均等割」は、加入世帯の人数に応じて計算するもので、赤ちゃんをはじめ、子どもにまでかかるため廃止すべきである。また、市民の命と健康を脅かす保険証の取り上げはやめるべきである。すべての加入者が安心して医療にかかれるようにすべきとの立場から反対する。		
認定第3号	令和2年度津市介護保険事業特別会計歳入歳出決算		滝勝弘、竹下幸智子 藤本ともこ、長谷川幸子
	《反対討論 日本共産党津市議団 長谷川幸子議員》わずかな年金から容赦なく天引きされる保険料。一方、介護が必要になっても利用料が払えず介護保険制度が利用できない人も多くいる。また、特別養護老人ホーム入所待機者も、いまだ273人いる。何より介護職員不足は切実となっている。必要な人が必要な介護が受けられることを求める立場から反対する。		
認定第4号	令和2年度津市後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算		滝勝弘、竹下幸智子 藤本ともこ、長谷川幸子 川口和雄
	《反対討論 日本共産党津市議団 長谷川幸子議員》後期高齢者医療制度は、75歳以上の高齢者を年齢だけで区別し、すべての医療制度から排除し、差別される制度である。高齢者を苦しめる医療制度は廃止し、安心して医療にかかれるようにすべきとの立場で反対する。		
認定第11号	令和2年度津市水道事業会計決算		滝勝弘、竹下幸智子 長谷川幸子、川口和雄
	《反対討論 日本共産党津市議団 長谷川幸子議員》県営水道の必要以上の契約により水道事業会計が圧迫されているが、今後、老朽化による水道管の更新や耐震化は進めていかなければならない。また、市として命に直結するセーフティネットを守る防波堤としての役割を守ることが、今こそ求められると考える。併せて、事業を支える技術者の養成・増員も進めるべきと考えることから反対する。		
認定第15号	令和2年度津市モーターボート競走事業会計決算		滝勝弘、竹下幸智子 長谷川幸子
	《反対討論 日本共産党津市議団 長谷川幸子議員》モーターボート競走事業の本質はギャンブルであり、行政が運営するべきではないという立場から反対する。		
決議第4号	田矢修介議員に対する辞職勧告決議について	百条委員会で明らかになった、議員および職員が叱責・どう喝される場や謝罪（土下座を含む。）する場に度々同席し、相生町自治会長（当時）の問いかけに同意したことなどの行為は、市議会のみならず、市役所全体に相生町自治会長（当時）が与えていた「実体のない恐怖感」や「有形無形の圧力」を助長させ、また、今回の一連の事件にも多大な影響を及ぼした非常に不適切な行為であり、その責任は重大であることから、自らの意思により速やかに職を辞することを勧告する。	渡辺晃一、小野欽市 伊藤康雄、杉谷育生 大野寛、田村宗博 川口和雄、村主英明 龍神啓介、村田彰久 山路小百合、辻美津子 福田慶一、倉田寛次
	《賛成討論 日本共産党津市議団 滝勝弘議員》百条委員会において、決議案にあるような事実が明らかになっており、その中でも、どう喝や謝罪の場に同席し、「間違ったらんだろう」と同意を求められ、それに同意する行為は、「恐怖感」や「有形無形の圧力」を助長させる行為であり、議員として極めて不適切であるため賛成する。		

